

腎疾患対策検討会報告書の全体像(案)

全体目標

自覚症状に乏しい慢性腎臓病(CKD)を早期に発見・診断し、
良質で適切な治療を早期から実施・継続することにより、
CKD重症化予防の徹底とともに、CKD患者(透析患者を含む)のQOLの維持向上を図る。

達成すべき成果目標(KPI)案

- ①多くの関係者が参画のもと、地域の実情に応じて本報告書の腎疾患対策に取り組む。
(評価指標案:市町村単位での対策の取組状況)
- ②かかりつけ医、メディカルスタッフ、専門医等が連携して、全てのCKD患者が早期に適切な診療を受けられるよう、地域におけるCKD診療体制を充実させる。
(評価指標案:下記「2. 地域における医療提供体制の整備」の評価指標案を参照)
- ③2028年までに、年間の新規透析導入患者数を35,000人以下に減少させる。
(評価指標案:新規透析導入患者数を、2016年比で、5年で5%以上減少、10年で10%以上減少を達成する都道府県数)

※進捗管理の過程で、成果目標(KPI)案の達成が困難と判断される場合、実施すべき取組を再度検討の上、対策に取り組み、目標達成に努めること。

個別対策ごとに今後実施すべき取組と評価指標案

1. 普及啓発

<実施すべき取組>

- ①普及すべき内容の検討・整理と普及啓発資材の開発
- ②地域で中心的役割を担う担当者を設置、行政と連携して活動を推進
- ③地域での普及啓発活動の実施状況等を把握した上で、活動内容の評価、好事例の共有

<評価指標案>

- ①全都道府県で普及啓発活動の実施
- ②市民公開講座等の実施数
- ③CKDの認知度

2. 地域における医療提供体制の整備

<実施すべき取組>

- ①かかりつけ医や腎臓専門医等への紹介基準の普及
- ②地域における、腎臓専門医等が所属する医療機関等の情報や、CKD診療を担う、かかりつけ医や非腎臓専門医等の情報の共有

<評価指標案>

- ①かかりつけ医と腎臓専門医等間の紹介・逆紹介率
- ②地域別のCKD診療を担う医療従事者数
- ③紹介基準に則った腎臓専門医等への紹介率

3. 診療水準の向上

<実施すべき取組>

- ①関連学会等が協議し、推奨内容を合致させた、ガイドライン等の作成
- ②患者、メディカルスタッフ、かかりつけ医など利用者を明確にしたガイドライン等を作成、普及
- ③糖尿病専門医等への紹介基準や、専門医間の連携基準等を作成、普及

<評価指標案>

- ①CKD診療ガイド・ガイドラインの各利用者に応じた普及率
- ②推奨される診療の実施率

4. 人材育成

<実施すべき取組>

- ①腎臓病療養指導士を含めたCKDに関する基本的な知識を有する医療従事者の育成
- ②かかりつけ医と腎臓病療養指導士との連携、腎臓病療養指導士と関連する療養士等との連携の推進

<評価指標案>

- ①地域別の腎臓病療養指導士数
- ②腎臓病療養指導士と関連する療養指導士等間の連携事例数

5. 研究開発の推進

<研究開発の方向性>

- ①中長期的な目標を踏まえた研究を、オールジャパン体制で推進
- ②本報告書の全体目標を達成するための研究推進
- ③行政と関連学会等が連携して、施策の提言や推進、進捗管理等を行う研究の推進

<研究例>

- ①関連学会と連携による、データベース間の連携
- ②研究及び診療へのICTやビッグデータの活用
- ③国際共同試験を含めた臨床試験の基盤整備
- ④病態解明に基づく効果的な新規治療薬の開発
- ⑤再生・オミックス(ゲノム等)研究の推進
- ⑥腎臓病の基礎研究力や国際競争力の基盤強化